

オール専修 の力

理事長 日高義博

ひだか よしひろ 1948年宮崎県生まれ。70年専修大学法学部卒業。75年明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。同年専修大学法学部講師、その後、助教授、84年に教授。88年法学博士。法学部長（2001～04年）、専修大学長（2004～13年）などを歴任。04年より法科大学院教授。06年より学校法人専修大学理事長。趣味の居合は5段の腕前。



育友会の皆様には、日頃から専修大学の運営に対してご支援とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

専修大学の歴史は、1880年（明治13年）に創立された「専修学校」に始まります。今年9月には、創立138年を迎えます。2019年（平成31年）に迎える創立140年に向けて、様々な取組みを推進しております。18歳人口が年々減少し、大学淘汰の厳しい時代に突入していますが、昨年9月に学長に就任されました佐々木重人先生と共に、教育・研究力を向上させ、大学の発信力を強めていく所存です。

6年前に発生した東日本大震災により、専修大学の神田・生田両キャンパスでは、校舎に大きな損害を被りました。震災後に策定したキャンパス整備計画に従い、両キャンパスにおいて新校舎の建設を進めてまいりました。一昨年7月から建設してきました生田2・3号館は、今年2月に竣工しました。生田2・3号館は、生田キャンパスの新たな“知の発信”拠点として、この4月から利用が開始されております。2号館は、地下1階地上2階建ての校舎で、音響と映像設備を備えたラーニングスタジオと200人程を収容できるラーニングシアターがあり、学生参加型の創造的な授業を行う場となりました。3号館は、地上7階建てであり、大学院と研究室等を中心とした校舎です。最上階の7階のホールからは、富

士山、筑波山等の山並みが見え、都心や横浜の街並みも一望することができます。ホールの名称は、「蒼翼の間」と名付けましたが、生田キャンパスのシンボリックな存在となることを期待しています。

一方、神田キャンパスでは、靖国通り新校舎の建設計画を着々と進めております。今年度は、取り纏められた基本設計をより具体的な内容に固める実施設計に取り組みます。靖国通り新校舎は、神田キャンパスの新しい顔となる校舎であり、来る創立140周年の完成を目指しています。

常々、大学の進展には“オール専修の力の結束”が必要だと申し上げてきました。本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」を促進するには、教職員・学生だけでなく、育友会の皆様や、校友会のメンバーにも大学の活動の輪の中に入れていただくことが必要なのです。育友会と校友会は、大学運営を支える両輪ともいえるべき存在です。育友会の皆様も大学の使命を果たすオール専修の一員として大学の発展のために共にご尽力いただくようお願い申し上げます。

専修大学は、創立以来、社会の屋台骨を支える有為な人材を多数輩出してまいりました。「学生を基本に据えた大学づくり」をポリシーとして大学運営を行っておりますので、温かいご支援とご協力をいただければ幸いです。